アフターコロナ目指して

バス発車

岡山桃太郎空港～吹屋の直行バス実証運行を議論

7月22日午前9時、吹屋ふるさと村の絵柄でラッピングされた大型観光バスが、岡山桃太郎空港を出発しました。拠点となる空港や駅と観光地を結ぶ二次交通の整備は、本市の観光施策の課題となっており、バスの実証運行が行われています。旧吹屋小学校校舎保存修理工事が完了し、外国人観光客の入国制限が緩和され、インバウンドの復調も見込まれる中で、本市の観光へのインパクトが期待されています。

「空港～高梁直行バス運行事業」は、令和4年度の新規事業で、首都圏からの誘客やインバウンドに向け、岡山桃太郎空港から備中高梁駅を経由して吹屋地区へ直行バスの運行を行う事業です。国庫補助550万円、市の一般財源から550万円、合計1100万円の予算が組まれています。

運行期間は、7月22日から11月20日までの金、土、日、祝日。45人乗りバスが1日1往復しています。7月22日から8月20日まで40回運行した結果は延べ243人が利用、1運行当たり6・2人となりました。

このような結果を踏まえて、9月定例会の一般質問では、5名の議員が様々な観点から質問を行い、バスの実証運行を題材に、市の観光施策の方向性を探る議論となりました。

▶旧吹屋小学校

▼旧吹屋小学校玄関

▲吹屋の町並み

費用対効果

45人乗りバスに平均6・2人しか乗車していないことから、費用対効果を問う質問が相次ぎました。執行部からは新型コロナウイルス感染症がまん延している時期であることから、当初から1運行当たり5人、運行期間全体でも延べ400人の乗車を想定していること、車両を小型化しても運行経費の削減にはあまり影響はなく、むしろ吹屋ふるさと村でラッピングされた大型バスの運行による宣伝効果が見込まれるとの答弁がありました。

周知・準備

利用客が少ないのは、運行開始までの準備不足が原因ではないかとの質問もありました。執行部からは、予算が成立して以降、関係機関との調整を行っており、夏休みとデスティネーションキャンペーン需要を少しでも取り入れたいため、当初計画より前倒しで実施日を早めた。見切り発車のような形になったことは否めない。すでにホームページやバナー広告、空港や駅での広報活動を進めているとの答弁がありました。

サービス・おもてなし

実際に乗車した議員からは、空港から吹屋までの2時間の乗車時間の観光案内やパンフレットの情報不足、備中高梁駅での電車との接続、高梁市図書館やトイレの案内、吹屋到着時のおもてなしの不足を指摘する質問がありました。執行部からは、これまでの利用者の声をバス運行に反映させてきており、今後も改善を考えていく。また、アンケートの必要性も感じているとの答弁がありました。

▲岡山桃太郎空港

地域連携・広域連携

吹屋地区との連携や、高梁市の観光施策にどう影響するのか、周辺自治体との連携に関する質問もありました。執行部からは、吹屋地区では各種団体の代表者での協議の場を定期的に行っている。市全体の観光に関しては、この実証運行によりこれまで課題とされていた二次交通を確保し、首都圏やインバウンド観光の足掛かりになる。周辺自治体とは他県の事例を参考にしながら、県に要望していくとの答弁がありました。

企業人材活用

現在高梁市では企業人材を受け入れていることから、議員からはバスの実証運行や観光施策全般について専門的見地からのアドバイスを受け入れるべきとの提案がありました。執行部からは、本市の足りないところにどう取り組んでいくか、また、行政では難しい誘客や経済効果につなげることについてアドバイスを受ける意向であるとの答弁がありました。